ブラフとは武力行使への能力も覚悟がなくても相手国に自分の能力を過大に見せることである。その行動により、戦争の三大原因の一つである情報の非対称性を引き起こし、戦争を招いてしまう。このメカニズムはバーゲニングモデルにより説明することができる。

まずA国とB国が存在するとする。

PはAが勝つ確率だとする。

またPは国力や軍備状況、兵力運用、軍事技術、戦闘能力によって左右される

CaはAの戦争コスト、CbはBの戦争コスト

人的被害や経済的被害を表している

バーゲニング・モデルにおいて平和解決が可能な範囲の大きさと位置を理解するにはまずAとB国の戦争利得の値を知る必要がある。

Aの戦争利得は戦勝確率のPからコストを引いたP−Ca

Bの戦争利得は戦勝確率のPからコストを足した１−(P＋Cb)

平和的な解決が存在する、つまり交渉可能な範囲はA、B両国の戦争利得を除いた部分かつ重なり合っている部分を指す。

図1は両国における情報（国力や軍事力など）が完備な状態におけるバーゲニング・モデルを表わしている。この状態では戦争はコストのかかる解決手段となり、非効率的であるために交渉可能な範囲で両国は合意に落ち着く。

図１

　　　　　　　　　　　　交渉可能な範囲（平和的な解決）

A p B



　　　０　　　　　　　P-Ca　　　　　　　　　　　　　P+Cb　　　　　　１

Aが戦争を好む範囲　　　　　　　　　　　　　　Bが戦争を好む範囲

（戦争利得）

図２は情報が両国がお互いの情報を誤認している場合を表している。ここではA国が自身の戦勝確率をP‘と過大評価したとする。この時、A国が戦争を好む範囲は図１より大きくなる。その結果、交渉可能な範囲は情報が完備な状態よりも狭まる。よって戦争で紛争を解決する可能性が増加する。

